

大田区自立支援協議会 第3回相談支援部会要旨

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第3回相談支援部会			
(2) 開催日時	令和5年9月13日(水) 9:30~12:00			
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局等	委 員 <敬称略>			
	神作 彩子	古怒田 幸子	椿山 通子	山本 利寛
	大窪 恒	大類 信裕	貝森 はるみ	草野 牧子
	筒井 寛孝	三浦 大輔	森田 友哉	
	オブザーバー：徳留 敦子、後藤 憲治、高柳 茂泰、森田 好美、渡部 尚、永谷 百恵			
	事務局：須藤 成政、酒井 史穂、江川 奈保美			
	欠席者：稗田 潤、宮澤 創、小嶋 愛斗、清野 弘子、渡邊 伸幸、村田 亮、七尾 尚之、小川 幹夫、西岡 寿恵			
(5) 内容・要旨	<p>1 連絡確認事項</p> <p>(1) 司会・書記の確認 司会は神作部会長、須藤係長。書記は事務局で行うことを確認した。</p> <p>(2) 議事録・意見だしカードの確認</p> <p>(3) 運営会議の報告・交流会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 10月2日に開催する大田区自立支援協議会交流会の内容について検討をした。 ● 今回の交流会では「あんしんとは」をテーマに、他の専門部会委員の交流を目的としている。 ● 交流会に併せて、各専門部会の令和5・6年度のテーマをまとめた「協議会だより」を作成しており、本日机上に配布している。 ● 交流会が開催されるため、10月は相談支援部会の予定を中止した。そのため、日程を調整して、ぜひ交流会へ参加をしてほしい。 <p>2 本日の検討課題</p> <p>(1) 事例検討</p> <p style="margin-left: 20px;">(ア)概要</p> <p style="margin-left: 40px;">第1回、第2回の専門部会にて、令和5・6年度相談支援部会のテーマと取り組みについて検討した。令和3・4年度のテーマであった「医療と福祉の連携」について、継続的な検討の必要性を感じた。それに加えて、「連携」はすべての分野に当てはまる。</p> <p style="margin-left: 40px;">どのような場合に支援者同士の連携が上手くいったと感じるか、その際に当事者の思いは反映されているか。「連携」という漠然とした言葉を改めて検討する。</p> <p style="margin-left: 40px;">大田区自立支援協議会の相談支援部会では、地域課題を抽出するための個別支援会議が紐づけられている。今回は提供事例から、野中式事例検討にて個別支援会議から「連携」について検討する。野中式事例検討は事例を事前に配布せず、事例提供者に質問をすることでアセスメントを全体で深め、課題を見つけていく方法である。</p> <p style="margin-left: 20px;">(イ)事例について</p>			

事例提供者：草野委員

提供事例は、主は子どもであるが、複合的課題がある家庭
<事例>Pくん（17歳）愛の手帳3度、特別支援学校高等部
父・母・姉・本人の4人暮らし

(2) 事例に関する質問（個人が特定される質問、回答は削除）

- Pくんは日本国籍か
- Pくんは学校に行っているか
- 今後の進路が決まっているか
- Pくんの体型はどうか
- 家庭の経済状況はどうか
- Pくんの熱中できることはあるか
- Pくんの両親の年齢を教えてください
- Pくんの健康状態はどうか
- Pくんのキーパーソンは誰か
- Pくんの疾患名を教えてください
- Pくんの通学状況を教えてください
- Pくんの住環境はどうか
- 就労継続支援B型の利用に向けて何か準備はしているか
- Pくんは利用している障害福祉サービスについて理解はできているか
- Pくんと父親の関係性は良好か。
- Pくんは放課後や土日はどのように過ごしているか
- Pくんにとって嫌なことはあるか
- 母親の就労状況について
- 親戚づきあいなどの交流関係があれば教えてください
- 父親と家族の関係は良好か
- 家庭での家事分担について教えてください
- 母親の健康状態はどうか
- Pくんが学校で問題があったなど報告があったか
- Pくんが支援機関に関わった経過を知りたい
- 虐待通報があったなど記録はあるか
- 母親から民生委員への相談内容は把握しているか
- Pくん家族の近所付き合いの状況を教えてください
- 父親は週にどれくらい外出しているか
- Pくんからこうしたいなど、意思の表出があるか
- Pくんは一人で外出できるか
- 父親の今までの職歴を知りたい
- 本人の特技はなにか
- 本人の強みはなにか
- 訪問時の自宅の中の状況はどうだったか

- P くんは友人はいるか
- P くんは身なりで気になることはあったか
- P くんは就労支援継続 B 型への通所は問題なさそうか

(3) 事例提供者が考える事例の課題

- 家族に課題があることは把握しているが、連携をする機関に悩む
- 父親の課題に関して、子ども側の相談員がどこまで関わっていいかの判断が難しい
- 家族それぞれが今後の意向が違うことによる支援の難しさ
- 学校や民生委員と福祉分野外の連携の方法がわからない

(4) 追加の質問

- 現在の母の仕事内容を教えてほしい
- 進路は就労支援継続 B 型以外に検討している情報はるか
- 母親は姉弟が今後自立することを考えているか
- 母親から経済状況について相談されたことはるか
- P くんはやりたいことが見えにくい、何か話を聞いたことはるか
- P くんは家に入出入りしている人などは確認できるか

(5) 各グループからの意見

今回の事例を基に「事例の課題」と「地域の課題」を各グループで抽出する。

(ア) 事例の課題

- P くんは進路先や今後の生活に選択肢がない
- 世帯の困りごとを聞き出せていないため、家族の情報が少ない
- 学校との連携が取れていないので、P くんは情報が少ない
- 家族のデイケア利用について情報が少なく、連携できていない
- 連携していいのか判断が難しい
- 家族全体の将来的な生活の見通しが立っていない
- 連携を今取るべきなのか、情報が少ないので、介入のタイミングが難しい
- 母親から相談がないため、P くんは相談支援からアプローチすべきか迷う
- 母親の本音を聞き出す方法として、母国語の通訳者に同席してもらう方法があるのではないか

(イ) 地域の課題

- それぞれに支援機関がアセスメントした情報を共有できる仕組みがない
- 外国籍の文化の背景を想定して、支援する必要がある
- 家族にそれぞれ課題があった場合、相談先がわからないことが多い
- 関係機関へ連携とる際、どこに、どこまで、情報共有をするか判断が難しい
- 現時点で連携をとる必要あるか?
- もし緊急で対応が必要な課題がある場合、どこの機関が相談先となり、主の支援者となるのかわからない
- 支援機関がつながっていない方を支援へ繋げる方法が難しい
- 予防的に情報を共有する仕組みがあれば、緊急時の連携がスムーズにできる

(6) まとめ

地域課題のひとつにも、連携に関する課題が含まれている。事例を個人ではなく全体に着目することで、新しい視点が生まれることがある。支援を行う上では、ひとつの事業所が課題を抱え込まない連携が求められる。

3 今回決定事項及び検討事項の確認

(1) 第4回専門部会について

11月の専門部会では、オブザーバーとして病院の医師に参加してもらい、医療と福祉の連携について検討できるように調整している。

(2) 事務局から

今年度もワーキンググループを設置する方向である。テーマは「大田区の会議体」について検討していきたい。メンバーについては、事務局から個別に声掛けをする。

次回日程

作業部会：令和5年9月27日（水）13時30分～15時30分

令和5年10月25日（水）13時30分～15時30分

専門部会：令和5年11月8日（水）9時30分～12時00分

障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室